

もしものときに備えて
町民救急医療教室を開催

9月6日、町民会館で『町民救急医療教室』（主催 美幌医師会、美幌・津別広域事務組合消防本部、美幌薬剤師団）が開催されました。

平成25年度救急医療週間に伴う事業の一環で、第一部では美幌町立国保病院の松井寛輔循環器内科部長が「動悸の原因」をテーマに医療講演を実施。動悸が起こる原因や対処法、医師の診察を受ける目安などを、例を挙げて分かりやすく解説しました。

第二部では、津別病院の看護師と津別消防署救急隊による、「AEDを使った心肺蘇生法」のデモンストレーションが行われ、寸劇風のユーモアを交えた実技指導で一刻も早い応急処置の重要性を説明しました。



美しい音色と生演奏の迫力を満喫
日本フィルセミナーコンサート開催

9月1日、中央公民館で『第18回つべつ日本フィルセミナーコンサート』（主催 津別町民芸術劇場、津別町教育委員会）が開催されました。日本フィルハーモニー交響楽団の団員が講師となり、全国各地から参加したアマチュア楽器奏者たちを指導するセミナーの集大成として、毎年行われているコンサートです。

オープニングでは、セミナー講師陣がドヴォルザーク作曲「弦楽四重奏曲12番アメリカ」を演奏。会場は、一流演奏家たちが奏でる美しい音色に包まれました。

続いて、セミナーの講師と受講者で編成された『第18回つべつ日本フィルセミナーオーケストラ』



によるグリゲ作曲「ペール・ギュント組曲」、ブラームス作曲「交響曲第2番」の演奏が披露され、聴衆は生演奏の迫力と美しいハーモニーを満喫していました。

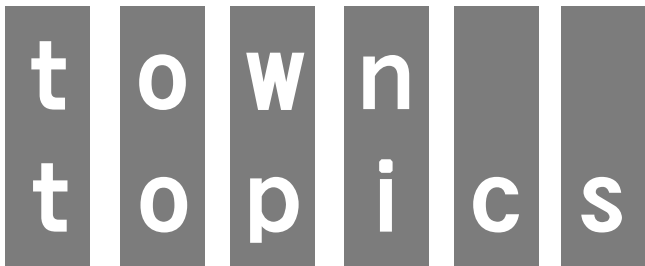
水泳記録会やゲームに挑戦
温水プールで「すいむまつり」

9月7日、温水プール・すいむで「すいむまつり」（主催 津別水泳協会）が開催され、30名あまりの子どもたちが、水泳記録会とプールまつりに参加しました。

記録会では、力量に応じて15メートルと25メートルの組に分かれ、それぞれ自己記録の更新を目指してチャレンジ。



続いて行われたプールまつりでは、水上ホッケーや浮島わたり、水上運搬リレーなどのゲームを楽しみました。特にプールに浮かべたマットの上を走り、水に飛び込むまでのスピードを競う浮島わたりでは悪戦苦闘する子もいて、周りから声援が送られていました。



まちのわだい

思いやりの大切さを伝える
本岐小で人権教室を実施

8月30日、本岐小学校で、子どもたちに思いやりの大切さを伝え、人権意識を育てるための取り組み「人権教室」（主催 北見人権擁護委員協議会）が開かれました。

身体に障がいを持つ子が、それを少しずつ克服する様子を描いたアニメを鑑賞し、障がいがある人たちの人権について学んだ後、人権擁護委員の修田建恵さんから人権



の大切さについてのお話がありました。子どもたちは、最後に人権イメーজキャラクタのKENまも君と交流し、一緒に記念写真を撮りました。

小学校の木育授業
加賀谷木材株の工場を見学

8月27日、町内3小学校の5年生38名が加賀谷木材株を訪れ、工場を見学しました。

豊かな森林と木材に恵まれた津別の児童に、人と森のつながりを学んでもらう木育授業の一環として行われたもので、加賀谷社長から会社の歴史や事業内容などの説明を受けた後、工場内を案内していただきました。子どもたちは、巨大な原木がカットされ、薄い経木などの製品になる工程を、真剣な表情で見学していました。



紅葉マラソン大会運営費の一助として
今年も津別ライオンズクラブから寄附がありました



9月6日、津別ライオンズクラブ（べんと功会長）から、紅葉マラソン大会の運営に役立てていただきたく、教育委員会に3万円の寄附がありました。

今年で12年目を迎える寄附で、目録を受け取った林教育長は、長年の厚意に対するお礼を述べました。

今回いただいた寄附金は、10月6日に実施される紅葉マラソン大会の、円滑な運営のために役立てられます。

地域おこし協力隊のご紹介 ③



森川 理香（もりかわ りか）さん / 東京都出身 / 42歳

東京から7月下旬に相生地区に引っ越してきた森川理香さんは、これまでフリーライター兼編集者として従事していました。

ファッション、教育、グルメなど幅広いジャンルの取材をする中で、特に感銘し、刺激を受けたのが飲食店、小売店などのサービス業界の取材だったそうです。

「お客と従業員を大切にされる優れた経営者たちに取材するうちに、いつか自分もそんな経営者になれればと思うようになりました」。

実際、ライター業の傍ら大型飲食店や百貨店に勤務した経験もあるとか。

現在は、『道の駅あいおい』での業務が中心ですが、今後は津別町全体に関わる仕事や地域の方との交流が深められる活動に、積極的に取り組んでいきたいそうです。

地域おこし協力隊とは、総務省の事業で、首都圏等から地域へ移住し、地域の生活支援や地域活動に協力し、将来は地域で就業または起業し、地域の活性化を目指すものです。